

基地撤去をめざす 県央共闘

* ↑タイトル・題字募集中

NO. 5

2008.10.8

発行：原子力空母の母港化に反対し

基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

〒242-0028 大和市桜森 3-5-3 7号1F

事務局連絡先T:042-752-4544 F:753-4725

E-mail:wm5h-urn@asahi-net.or.jp

編集責任者 檜鼻達実



憤—9月25日早朝、横須賀港に原子力空母ジョージ・ワシントン（G・W）が入港してきた。「配備反対!」「直ちに帰れ!」の怒声が飛ぶ。

この日、海上デモには11隻が出港し、保安庁の警備をかいくり、空母の入港阻止行動が次から次へと繰り広げられた。原子力空母が配備されることで、原子力事故の不安が増大するばかりではなく、軍事的な戦力が格段に強化されることになるのだ。日米軍事一体化による軍事的緊張を許してはならない。

最強の先制攻撃能力を備えた空母とイージス艦の居座りをこれ以上続けさせてはならない。

怒—原子力空母ジョージ・ワシントンの横須賀配備を阻止しようとして小田急大和駅前では、9月21日、22日に、厚木爆同、第四次訴訟団、県央共闘会議のメンバー等が座り込み行動を行なった。

天候不順のなか、次から次にハンドマイクで、街頭行動で道行く市民に、静かな空を返せ、配備反対の声をあげていこうと呼びかけた。

1973年から横須賀が空母母港化されたことで、艦載機の被害に苦しんできた厚木基地周辺住民には、何等解消されない違法爆音の常態化に怒りが充満しているのだ。

基地被害のたらい廻しに過ぎない米軍再編の実態を暴露し、基地撤去を目指そう。



横須賀・ヴェルニー公園で9月20日から始まった座り込み行動に連鎖して、艦載機の違法爆音に苦しむ厚木基地周辺市民に配備反対を訴えようと9月21、22日の大和駅前座り込み、23日、厚木基地の米海軍、海上自衛隊双方の司令官に申し入れ。夕方からは、基地北側で怒りの炎集会在「配備阻止大和連続行動」として取り組まれた。



【雨天にもかかわらず座り込み行動は続けられた。】



【配備阻止を呼びかける藤田第四次訴訟原告団团长】



【厚木基地に申し入れする斉藤第四次訴訟原告団事務局長】



【空母艦載機の爆音を測定する厚木爆音等】



【「怒りの炎」行動に向けて作業する県央共闘会議等】



【怒りの炎が燃え続ける基地北側に100人が結集】



うみかぜ公園に全国から 350 人が集まって、7時から始まった配備反対集会。湾内にジョージ・ワシントンが入港してくると、配備は許さない！空母は帰れ！基地強化反対！とシュプレヒコールのボルテージはいやがうえにも上がる。空母に接近し、「NO！CVN」と声を張り上げる海上デモと一体となって入港阻止行動が展開された。平和船団には 55 人が乗り込んだ。岩国、呉、広島ピースリンクの皆さんは、7隻のゴムボートをワゴン車に積み込んで、12時間かけて駆けつけた。この行動力に学びたい。



【早朝にもかかわらず、うみかぜ公園には 350 人が結集】



【強行入港を許さないと夕方の抗議集会には 4800 人が集まった。】

